

NEWSLETTER #117

p.1	第30回日本ポピュラー音楽学会年次大会 JASPM30 開催のお知らせ
p.4	2018年度第1回中部地区例会報告.....広瀬正浩
information	
p.5	事務局より

第30回日本ポピュラー音楽学会年次大会 JASPM30 開催のお知らせ

ご挨拶

大会実行委員長・大和田俊之

JASPM 第30回大会は、2018年11月24日(土)・25日(日)に、慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されることになりました。

大会のタイムテーブルは、近年の JASPM 大会(昨年度を除く)に倣い、24日(土)午後個人発表と総会、25日(日)午前ワークショップ、午後シンポジウムを計画しています。

今回は記念すべき第30回大会ということもあり、学会の黎明期から現在に至るまで重要な功績を残された先生方にご登壇いただき、日本のポピュラー音楽研究の軌跡をあらためて振り返り、今後の学問的進展に資するようシンポジウムを企画いたしました。

慶應義塾大学日吉キャンパスは、東京都区内の渋谷駅、目黒駅、及び神奈川県内横浜駅から電車で約20分、また新幹線でお越しの方は新横浜駅から約15分です。日吉キャンパスは駅の目の前で、羽田空港か

らの便も悪くありません。

11月に慶應義塾大学日吉キャンパスで皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。

日時:2018年11月24日(土)、25日(日)

会場:慶應義塾大学日吉キャンパス

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

※会場へのアクセスは3頁をご参照ください。

プログラム(暫定版)

11月24日(土)

13:00 開場・受付開始

14:00~16:50 個人発表

個人発表A:

A1 14:00~14:40

劉潤(国立音楽大学大学院博士後期課程)

昭和戦前期の関東州・大連放送局による流行歌の生放送—その「政策」と社会的要因及び影響について—

A2 14:40~15:20

島倉聖朗(横浜市立大学大学院都市社会文化研究科博士後期課程)

太平洋航路における「船の楽土」を通じた軽音楽受容過程の分析—演奏プログラムの曲目変遷を事例に—

15:20～15:30 休憩

A3 15:30～16:10

加藤夢生(東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻修士課程)

戦後日本における「ジャズ・フェスティバル」の受容と定着過程

A4 16:10～16:50

澤田聖也(東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程)

本土復帰前後における沖縄ロック・ミュージシャンの演奏活動の変化—Aサインクラブを中心に—

個人発表B:

B1 14:00～14:40

Rodney A. Dunham(帝塚山大学)

Queens of Noise: The Runaways as Jungian Archetypes in Japan and in America

B2 14:40～15:20

黄逸雋(コウイツシュン)(法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻国際日本学インスティテュート博士後期課程)

ねじれた演歌像—「女」に結びつけられすぎた「日本の心」—

15:20～15:30 休憩

B3 15:30～16:10

増田聡(大阪市立大学)

「愛国ソング」の系譜—ニッポン系ポップ研究序説—

B4 16:10～16:50

佐藤慶治(精華女子短期大学幼児保育科専任講師)

NHK 教育番組「みんなのうた」の成立と「うたごえ運動」の関連性

個人発表C:

C1 14:00～14:40

小林篤茂(ミュージシャン)

ライブにおける、音響エンジニアの役割、創造性、技術性に関する考察—ライブハウスの PA エンジニアを事例に—

C2 14:40～15:20

若宮花瑛(武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻前期博士課程)

音楽コンテンツの再生媒体としてのパチンコ

15:20～15:30 休憩

C3 15:30～16:10

戸田直夫(大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)

「ハーモニーディレクター」は日本の吹奏楽をどう変えたか—楽器産業と学校音楽文化—

17:00～18:00 総会

18:10～20:10 懇親会

11月25日(日)

9:00 開場・受付開始

9:30～12:30 ワークショップ

ワークショップA:

なりきることの創造性、ミュージシャンの(への)生成変化

発表者:宮崎尚一(愛知県立大学非常勤)

長澤唯史(椋山女学園大学)

広瀬正浩(椋山女学園大学)

討論者:水川敬章(愛知教育大学)

ワークショップB:

定量調査から見るポピュラー音楽—ジャンル・ジェンダー・階層・人間関係—

発表者:南田勝也(武蔵大学)

木島由晶(桃山学院大学)

永井純一(神戸山手大学)

討論者:小川博司(関西大学)

ワークショップC:

戦後日本における表現としての音楽文化

発表者:栗谷佳司(立命館大学)

平石貴士(立命館大学大学院)

太田健二(四天王寺大学)

12:30～14:00 昼休み

14:00～17:00

日本ポピュラー音楽学会設立 30周年記念シンポジウム:日本におけるポピュラー音楽研究—30年の歩み—

パネリスト:三井徹(金沢大学名誉教授)

小川博司(関西大学)

細川周平(国際日本文化研究センター)

井上貴子(大東文化大学)

司会:毛利嘉孝(東京芸術大学)

会場へのアクセス



2018 年第 1 回中部地区例会報告

広瀬正浩

シンポジウム:音楽は映像を志向する

—ミュージックビデオが拓く世界—

2018 年 7 月 14 日(土) 13:30~17:00(途中休憩あり)

場所: 相山女学園大学・星が丘キャンパス 国際コミュニケーション学部棟 010 教室

パネリスト: 村山和也(映像作家/映画監督)

前口渉(作編曲家)

長澤唯史(相山女学園大学教員/JASPM 会員)

司会・問題提起: 広瀬正浩(相山女学園大学教員/JASPM 会員)

2018 年度の日本ポピュラー音楽学会中部地区例会は、7 月 14 日(土)の 13:30~17:00、相山女学園大学にて開催された。学会員・非学会員を併せて 31 名の参加者があった。

今回はシンポジウム形式で、「音楽は映像を志向する—ミュージックビデオが拓く世界—」というタイトルの下、音楽と映像の関係について、様々な立場の者が議論するという内容のイベントを行った。来聴を呼び掛ける案内文には、「現代の文化において、音楽と映像の関係は切り離せないものとなっています。私たちにとって当たり前のようにになっているこの表現形式を、いま、どのように考えればよいのでしょうか。作り手であるお2人をお招きして、意見を交わし合います」と書いた。

パネリストとして会員外から招聘したのは、「作り手」の2名である。1人は、昨年度の中部地区例会にもお呼びした、映画監督・映像作家の村山和也氏である。昨年度は、村山氏の初監督作品『墮ちる』(2016 年)の上映とクロストークを行ったが、村山氏は映画制作の他にも数多くのミュージックビデオ(MV)の制作にも携わっているため、今回はそちらの経験を軸に語っていただいた。そしてもう1人の「作り手」が、作編曲家の前口渉氏(スマイルカンパニー所属)である。前口氏は、井口裕香、ELISA、岡本信彦、ジャニーズ関連、早見紗織、『ラブライブ!』などの楽曲制作に関わり、アニメ劇伴やゲームコンテンツ BGM なども幅広く手がけている。アレンジを担当した嵐『truth』は第 41 回オリコン年間ランキ

ング 2008 でシングル部門売り上げ 1 位を獲得するなどの実績もある。また、村山和也監督作品『墮ちる』の音楽も担当している。

会員からは、「研究者」という立場で長澤唯史氏(相山女学園大学)がパネリストとして加わり、同じく会員の広瀬正浩が司会として参加した。

最初に「作り手」の2人から、制作のデモンストレーションを取り入れながら、音楽と視覚イメージとの交差について報告してもらった。まず、野田愛実(のだえみ)というアーティストの「Happy Smile」という楽曲の編曲を担当した前口氏が、どのように編曲の作業を行ったかを Cubase の画面をスライドに映しながら説明し、聴覚的なアレンジによってどのように総合的なアーティストイメージを構築していくかについて語ってくれた。次に村山氏が、自身が制作を担当した「ヤなことそっとミュート」という女性アイドルグループの「ループルの空」という曲の MV を例にとり、一つの MV ができるまでの流れを丁寧に説明してくれた。企画書やコンテの作成、ロケハン、ロケ地や衣装の申請などを経て、どのように一つの映像を仕上げていくかという過程を、実際の企画書や Premiere の画面を示しながら語ってくれた。

「作り手」2人の報告の後、「研究者」という立場から長澤氏が、1980 年代の MTV 登場以前の音楽と映像との関係を歴史的に整理するプレゼンテーションを行った。1940 年の Soundies 制作開始、1948 年の Ed Sullivan Show の放送開始などから、1950 年代、60 年代のレス・ポール、エルヴィス・プレスリー、ビートルズ、ボブ・ディランら音楽家たちの映像への取り組みを、実際の映像を紹介しながら説明していった。TV というメディアの登場によって「見せる演奏」というものが形成されたという現象は、今日の MV のあり方と連続性を持つものであると言えるだろう。

その後、パネリスト3人と司会を交え、音楽と映像との関係をめぐる討論を行った。4人それぞれが「お薦めの MV」というものを紹介しながら(ミシェル・ゴンドリーの作品が特に挙がった)、MV の可能性や制約について語り合った。その中で興味深いトピックを幾つか挙げたい。

○アイドルの MV においては、「ダンスシーン」「ソロのリップ」「ドラマシーン(イメージシーン)」の3つ

を軸にして構成されることが基本としてあり、グループアイドルの場合、それぞれのソロの場面をどのように配分していくかということが重要になる。

○V系バンドの場合、映像作品に対するアーティストの意志が比較的強いいため、アーティストの意志を尊重する映像作家としては自由度が高いわけではない。バンドの場合はライブが大切であるため、ライブ演奏をどう撮影すると映えるかという観点でMVが作られる。

○YouTuberなどによる音楽と映像を組み合わせた表現が今後量産されていくだろうが、その場合に「クオリティの差」が問題になってくる。MVは「生っぽくならないように」という点が目指されるのではないか。

○CMはスポンサーの意向や放送環境等から、過激な映像表現を追求することはできないが、その点MVは、予算がないからこそ可能な実験性の追求ができる場としての意味をもっている。新人クリエイターが参入しやすい領域だと言える。

上記にもあるように、近年、YouTubeやTikTokなどを通じて、いわゆる「プロ」ではない者たちによる音楽映像表現が盛んに行われるようになってきている。「プロ」の「作り手」でもある村山氏も前口氏もそうした状況を見守りながらも、「プロ」とそうでない者との違いは「最後まで作りきることができるか否か」という点にあると答えていたことが印象的であった。このことは、論文を執筆する研究者にも当てはまることではないかと思う。

質疑応答の時間では、彼らの作品のファンや映像制作を目指しているクリエイター(の卵)たちからの積極的な質問や発言があった。イベントを盛況のうちに終えることができた。こうした会員外にも開かれたイベントを、今後も続けていきたい。

(広瀬正浩)

◆information◆

事務局より

1. 原稿募集

JASPM ニュースレターは、会員からの自発的な寄

稿を中心に構成しています。何らかのかたちでJASPMの活動やポピュラー音楽研究にかかわるものであれば歓迎します。字数の厳密な規定はありませんが、紙面の制約から1,000字から3,000字程度が望ましいです。ただし、原稿料はありません。

また、自著論文・著書など、会員の皆さんのアウトプットについてもお知らせ下さい。紙面で随時告知します。こちらはポピュラー音楽研究に限定しません。いずれも編集担当の判断で適当に削ることがありますのであらかじめご承知おきください。

ニュースレターは学会ウェブサイト掲載のPDFで年3回(2月、5月、11月)の刊行、紙面で年1回(8月)の刊行となっております。住所変更等、会員の動静に関する情報は、紙面で発行される号にのみ掲載され、インターネット上で公開されることはありません。PDFで発行されたニュースレターはJASPMウェブサイトのニュースレターのページに掲載されています。

(URL: <http://www.jaspm.jp/newsletter.html>)

8月の紙媒体での発行号については、会員の動静に関する個人情報を削除したものを、他の号と同様にPDFにより掲載しております。次号(118号)は2018年11月発行予定です。原稿締切は2018年10月20日とします。また次々号(119号)は2019年2月発行予定です。原稿締切は2019年1月20日とします。

投稿原稿の送り先はJASPM広報ニュースレター担当(nl@jaspm.jp)です。お間違えなきようご注意ください。ニュースレター編集に関する連絡も上記にお願いいたします。

2. 住所・所属の変更届と退会について

住所や所属、およびメールアドレスに変更があった場合、また退会届は、できるだけ早く学会事務局(jimu@jaspm.jp)まで郵便またはEメールでお知らせください。会員情報変更届はJASPMウェブサイトよりダウンロードできます。ご連絡がない場合、学会誌や郵便物がお手元に届かないなどのご迷惑をおかけするおそれがございます。例会などのお知らせはEメールにて行なっております。メールアドレスの変更についても、速やかなご連絡を事務局までお願いいたします。

3. 会費請求と会員のメールアドレス問い合わせについて

2018年3月に、2018年度の会費請求書類を、学会誌 Vol.21(2017)と一緒に会員の皆様のお手元にお届けしました。学会誌は 2017 年度の会費納入者にお送りしておりますので、学会誌が同封されていない場合は、速やかに会費を納入いただきますようお願いいたします(会費納入後速やかに会誌を送付いたします)。

なお、会員の皆様には、電子メールにて随時、学会からのお知らせ「JASPM メールニュース」をお送りしておりますが、最近、メールが不着となる会員の方が増えております。そのため、会費請求書類とあわせて、会員の皆様に最新のメールアドレスの問い合わせに関する書類を同封しております。メールニュースが届いておられない会員の皆様につきましては、ご留意の上ご回答いただきましたら幸いです。

JASPM NEWSLETTER 第117号
(vol. 30 no.3)

2018年8月22日発行

発行：日本ポピュラー音楽学会 (JASPM)

会長 小川博司

理事 青木深・井手口彰典・井上貴子・大和田俊之・川本聡胤・谷口文和・増田聡・安田昌弘・山崎晶

学会事務局：

〒606-8588

京都市左京区岩倉木野町 137

京都精華大学

安田昌弘研究室内

jimu@jaspm.jp (事務一般)

nl@jaspm.jp (ニュースレター関係)

<http://www.jaspm.jp>

振替：

00160-3-412057 日本ポピュラー音楽学会

編集：平石貴士